

前回の運営委員会（平成18年3月6日開催）のまとめ

1 決定事項

- (1) 技術・運営管理者を廃止し、発言の事前チェックを運営委員会において行う。
- (2) 4月1日付けで「発言掲載画面等のリニューアル」を事務局案どおり実施する。

2 委員の主な発言

(1) 市役所ひろばについて

「市役所ひろば」の改善に努力をしてもあまり効果は得られないのではないかと。これまで改善案を考え、工夫をしてきたが、これ以上手をかけて進めてみたところで効果は少ないのではないかと。

電子会議室へ意見を言うよりも、「いつでもコール」か「市長への手紙」の方で意見を言う方がいいと考える市民が多いのではないかと。

「まだ改善すれば市民に使ってもらえる電子会議室になる」という前提に立って議論をしてきたが、「市役所ひろば」の改善点を探ってみても、一定の効果はあるだろうが劇的な効果は期待できそうにない。

【市役所ひろばに関する改善案】

広報資料を基に話題を提供し、意見が書き込めるようにする。

京都市情報館トップページの「市政トピックス」や「市民参加情報カレンダー」に意見がつけられるようにしてみようか。

市の広報や市民との情報共有のツールとして使える可能性はある。一般の市民が登録し、発言するのを期待するのではなく、行政が自分たちのやっていることを市民に伝えるというスタイルならば、時間差のあるやりとりでもいいと思う。

(2) 市民ひろばについて

「市民ひろば」で自由に円満な意見交換をしていくことで、電子会議室が面白いと実感した人が、「市役所ひろば」の方にもやってくる、というような流れが生まれればいいと思う。

「市民ひろば」に関してはNPOに任せるといった選択肢もあるかもしれないが、「市民ひろば」が他都市で奮っていないというハードルの高さは越えられそうにない。無理やりやっても一緒だろうということが予測としては正しいと思う。

(3) 電子会議室の運営方法について

内容やテーマの設定とともに、運営体制がポイントだと思う。進行役をテーマにすぐに関心を持っていて、自分自身も議論をしたいという人に任せるか、もしくは大和市のように、職員が個人名で登録して活発に意見交換するというのをしないと発言数も閲覧数も伸びないのではないかと。

大和市は月ごとに「こんな内容のことを話しました」といった要約を載せているので、途中から参加しても内容がわかる。投稿しないまでも、そこでなされている議論を閲覧することができる工夫が欲しい。

大学コンソーシアムがやっているプロジェクト型のインターンシップを活用して、実際に運営をしてもらうようなプロジェクトを立ち上げてはどうか。

学生に運営を任せたとはいって、どのような成果を持たせてあげることができるだろうか。インターンシップを活用することで当面は凌げるだろうが、根本的な解決にはならない。

(4) 電子会議室全般について

ア 費用対効果について

そもそも電子掲示板が衰退傾向にある。昔のように「ITがどんどん発展していくから、急いで用意して活発化していきましょう」という時代ではない。急いで撤退するかどうかを決めるほど深刻でもないが、100万円以上の公費を使っていることは真剣に受け止めないといけない。電子会議室を消極的な意味で残すなら、敢えて残さなくてもいいのではないか。

他都市や都道府県の電子会議室はどこも苦戦している。現状は「こんなものかな」と思うが、費用対効果の面で継続すべきか否かは、検討する必要があると感じた。電子会議室は一概に税金の無駄使いとは思わない。このまま閉鎖するというのはあまりにもったいない気がする。

毎年1千万円もかかるのであれば、すぐに止めた方がいい。しかし、毎年20～30万円で会議室は立ち上がっていて、役所のどこかの所属が何かやろうとしたらすぐできるということであれば置いておいても理解は得られるではないか。

イ 位置づけ・役割について

「市長への手紙」「京都いつでもコール」と電子会議室の「市役所ひろば」が、京都市の情報政策や広報の中でどう位置づけられるのかを議論していく必要がある。市民参加推進計画に定められている事業として、電子会議室について議論してきたが、いったん情報政策や広報の立場からのフィードバックさせる必要があると思う。

IT技術を使ってするコミュニケーションと実際人間があってするコミュニケーションはまったく異質のものだ。電子会議室において一般的なフォーラムなどと同じような意見のやり取りができるという前提に立って電子会議室を構築しようとしているが、それは違うのではないか。

インターネットを通じて市政に発言ができる場を残しておくことは意義があると思う。「市長の手紙」などの色々な窓口があるなかの一つとして設けているという割り切り方もできると思う。

パブリック・コメントだけでなく、電子会議室を使って意見聴取をやることは、それはそれでいいと思う。

ウ 今後のあり方について

インターネット上のコミュニティへの参加は非常に低調になっているということだが、「改善すれば市民に必要なものがつくれる」と判断するか、「そもそも違っているのが無駄だからやめたほうがいい」と撤退するか、二つのうちのどちらかの判断が必要だ。

コミュニケーションを苦手としている人が増えてきているということがあるのかもしれないが、行政とコミュニケーションをわざわざネットでとりたいと思うものなのだろうか。行政を相手とする場合は、ネットの前に違う方法が先にあるのではないかと思う。

2年ほど実施してきて結果が振るわなかったということは、市民はあまり電子会議室を必要と感じなかったということだ。そろそろ引き際をみたいなものをお考えをおかなければならない。

テーマ設定をやめてしまい、Q & A形式の掲示板にするということは「市民ひろば」の方でもできる。性格的に重なるものはやっても仕方がない。将来的に「市長への手紙」やコールセンターでできることは、そちらに任せるべきだ。